

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091200198
法人名	株式会社 楓
事業所名	グループホームいしまる
所在地	福岡県福岡市西区石丸2-4-6
自己評価作成日	令和2年10月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	令和2年11月18日	評価結果確定日	令和2年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスの影響で自粛や制限が多く、なかなか思うようにいかない日が続いてたのは言うまでもありません。
 地域に出て行くことも減少傾向にあります。事業所内で入居者が生き生きとした生活を送ることこそがご家族の励みにもなると思い、施設内行事を増やしたり、食べたい物を行事に取り入れたりと様々な工夫を行い入居者様、職員の笑顔と健康の維持に努めています。
 また、「コロナ感染者を1人も出さない」と職員一致団結し予防に取り組んで来ました。
 今後も新しい生活様式を取り入れながら、しっかり予防しコロナに臆することなく楽しく過ごせる環境づくりに努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所の近くにはバス停があり、福岡市営地下鉄からも程近く、交通の便の良い場所にあり、訪れやすい環境である。隣には地域交流の場にもなっている公民館があり、公民館職員とは相互に協力しながら、地域に密着した事業所となるよう取り組んでいる。これまで交流を図ってきた近隣住民から体温計や野菜の提供を受けたり、新たに近所の会社から生花の提供を受けたりするなど、コロナ禍において行事などを通じた交流が減っている中でも地域からの協力が絶えない関係作りができています。
 管理者と職員は、利用者と家族、職員がお互いを尊重し、認め合うことが笑顔溢れる生活につながると思いが込められた事業所理念を実際の支援内容に反映できるよう、事業所一丸となって支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入職員にはオリエンテーション内で理念を組み込み全員で共有できるようにしている。 日常においても在職者に伝える場面がある。	職員は事業所理念である「認め合う」ことの大切さを念頭に置きながら、利用者や家族、地域住民と接している。利用者、家族のことも知るだけでなく、職員のことも知ってもらうことでより深い信頼関係の構築に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、コロナウイルスの影響もあり交流を図ることも減ってきているが、以前は地域や事業所での行事に参加し交流が盛んだった。 公民館を通じて地域の方と会う機会はある。	地域との繋がりについては前回の外部評価調査で検討課題となっていたが、近くの公民館に向いて近隣住民と交流する機会を設けるなどして、より地域と密着した事業所となるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの影響で動きが難しい状況であるため、主に電話等で受けている。 協議会を通じての啓発活動も以前のように行っていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、地域代表、民生委員、包括支援センター、福岡市担当者が参加し事業所の現状報告、地域の方々からの要望等受けている。 現在はコロナウイルスの影響で文書での意見徴収としている。	主に事業所の利用状況や運営状況、ヒヤリハット事例などを報告し、家族や地域住民、地域包括支援センター職員などの様々な視点からアドバイスを受け、サービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターと連絡を取ることがある。 社協とも連携し、求職者支援や認知症啓発を行っている。	社会福祉協議会などと協力して認知症の啓発活動のためのイベントを行ったことがあり、事業所の取り組み内容について理解は得ている。今後はGH連絡会である「いとの会」、第6圏域医療福祉連絡会「ろくさぼ」の活動を通して、行政担当者との関係性を深められるよう検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会やフロア会議で、身体拘束について学ぶ機会があり常に拘束をしないケアについて考え実行している。 現在は、コロナウイルスの影響もあり施設内の生活が多いため、精神面も含めより良いケアを実践している。	利用者と接する中で気になった点があれば、その場ですぐに注意し合うなどして、事業所一丸となって意識改善に取り組んでいる。実際の支援内容を振り返る中で、特に言葉かけなどによるスピーチロックについて、反省点としてあがることがある。	スピーチロックについては、具体的な言葉に置き換えるなどして、利用者が不安に感じないような対応を心掛け、実践している。現状の取り組みと合わせて、声量や話す速さ、話すときの態度といった接遇面についても知識や技術を身に付けていくことで、より一層のケアの充実に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を実施し学ぶ機会を設け理解を深めている。 新入職員についてもオリエンテーション時に伝え基礎を理解した上で現場に入っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、後見人制度を利用されている方がいたため職員も直接後見人と会う機会も多かった。 普段は、定期の勉強会等で学ぶ機会を得ている。	権利擁護に関する制度について相談があった場合には、パンフレットを渡したり、対応可能な職員が相談に応じている。勉強会で知識を深めるだけでなく、今後は外部研修会への参加を積極的に促すなどして、相談対応のできる職員の育成に取り組むことも検討している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に解りやすく専門用語等を避け時間を使って説明している。 途中でその都度、質問がないかを確認しながら進め、疑問点にはその場で答え納得を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との信頼関係向上に努め、意見等が言いやすい環境づくりを心掛けている。 毎日、面会に来て下さる家族も多く、その際に伺うこともある。	利用者、家族ともに直接職員が顔を合わせながら、意見や要望を聴き取っている。特に利用者には馴染みの職員が対応することで、込められている思いを汲み取れるよう配慮している。意見や要望は職員間で情報共有し、会議等で検討した上で反映に繋げている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との交流や意見交換を適宜行っている。 問題解決については役職者だけで取り組まず職員とも話し合い解決に導いている。	小さな疑問点などにも耳を傾け、管理者や役職者に意見や提案を言い出しやすい関係を築いている。実際にコロナ禍での行事について意見を交わして、規模縮小での実施を決定したり、テーブルの購入や暴風対策として飛散防止フィルムを取り入れたりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人のスキル、家庭環境等を把握しシフト作成しており、それぞれの能力に応じ担当や委員会、その他の業務を振り分けている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢問わずやる気のある方を積極的に採用している。 業務改善等においても、平等に意見徴収し個人の能力に応じて業務配分している。	何よりも「やる気」を重視し、職員それぞれに担当や委員会を付け、各自のもつ能力を発揮し、「やりがい」を感じられるようにしている。職員からの意見を取り入れ、実務者研修修了者には資格手当を付けるなど、職員のやる気、能力向上への意欲を評価し、働き続けたいと思える環境を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修内で学ぶ機会を確保しているが、外部研修にも機会があれば積極的に参加している。 現在は、コロナウイルスの影響で書面上で行うことが多い。	内部研修で学ぶ機会を設けており、外部研修への案内も周知し、希望者が参加できるようフォロー体制を整えている。利用者と接する際は特に言葉かけに注意を払い、丁寧な対応となるよう努めている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力を把握した上で業務を振り分け、適宜指導しながら成長を促している。 外部研修においては、研修内容を案内し受ける機会の確保を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの影響で直接会って行うことが叶わないが、SNS等を利用し「いとの会」や「ろくさぼ」を通じ、同業者とは常に繋がりを持ち交流を深めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から顔見知りの関係を築くようにしている。 また、居室やフロアで一人になっている時は、一緒にお茶や会話をし孤独感を得ないよう環境づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者から毎月ご家族に本人の様子を手紙で報告している。 また、来所持や電話等でも状況を報告する中で不安や要望について聞き取りを行っている。 上記同様、入居前から顔見知りの関係を築けるよう配慮している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に情報提供書を確認し必ず本人の元へアセスメントに行っている。 そこで必要なニーズを検討し入居時から本人が不安にならないようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全て職員だけで行うのではなく、洗濯物たたみや食器拭き、散歩ついでに郵便物簿投函、時には他入居者の食事介助を職員見守りの下される方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が生活を送る上で不安や困りごとがあ際は、ご家族にも協力を得ている。 また、体調不良時にはご家族の協力も得ながら受診することもある。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人からの希望が出た際は、ご家族にも相談させていただきながら希望が叶うよう努めている。 現在は、コロナウイルスの影響でご家族とも話し合いながら外出を決めている。	新型コロナウイルスの影響で、家族や旧知の方の訪問が難しくなったり、思うように外出できなかったりしているが、事業所内で話し合っってオンラインでの面会を導入するなど、家族の協力を得ながら、関係を途切れさせない支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がお互いの心配をされ互いの話を聞かれる場面もある。 孤立しそうな方がおられれば、入居者が声を掛け会話の中に入れていく。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院での退居は、ご家族了承の上お見舞いに伺っている。 また、看取り後も行事にお誘いしたり家族内の介護相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の本人との会話の中で、思いやどう過ごしたいかを聞き取り本人らしく過ごせるよう努めている。 困難な場合は、ご家族に相談している。	利用者との日々の関わりの中で、居室内や散歩中など話しやすい環境の時に直接聞き取っている。表に出すことが困難な場合にも利用者のことをよく知る人から利用者へ直接聞いてもらうなど、利用者本人の思いを汲み取れるよう工夫している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には必ず情報提供をいただくようしており、それを基に入居前カンファを行っている。 更に入居後、本人から今後の生活に伴う希望も得ている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のモニタリングや申し送り、各記録物において情報を共有するようにしている。 また、担当制であるため担当を中心に物事を進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題は日々ケースファイルに記録するとともに毎月のモニタリングにより本人や家族の意向も踏まえフロア会議で全員で見直し作成している。	利用者の日々の状態を細かく記録し、記録内容を基に利用者が今、必要としているサービスについて話し合いながら介護計画を作成している。コロナウイルスの影響もあり、家族に利用者の現状が伝わりづらくなってしまったため、オンライン面会時や電話、報告のお手紙などで、様子をこまめに報告するよう心掛けている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はケアプランのニーズに基づいて記録しており、見直す際に職員の記録を反映し役立てている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人を支えていくために職員だけでなくご家族にも協力していただくこともあるが、ご家族の家庭の事情により一時的に支援が困難な場合はケア内容を検討し柔軟に支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	普段の散歩や買い物、行事を通じて近隣の方や民生委員にも覚えてもらっている。 施設内でばかり過ごすのではなく、地域に出て行く機会を確保している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の体調を把握し主治医には適宜相談している。 必要があれば、ご家族等の希望を確認した上で主治医に検査等相談している。	利用者や家族の希望する医療機関を受診できるように、職員の同行支援体制を整えている。協力医療機関の医師や看護師とは24時間対応で相談が可能な体制にあり、利用者が必要とする医療を適切に受けられるよう努めている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から入居者の気になることを職員間で共有し、「医療連携ノート」を活用しながら適切な対応ができるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には必ず職員が医療機関に情報提供を行い且つき添っている。 退院時は、退院前カンファを開いていただき管理者、CM、担当者、必要に応じて協力医の看護師等参加している。 その後、職員全体でのカンファに移行する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時や終末期の場合、ご家族や医療関係者と情報を共有しながら支援している。 また、ご家族が安心できるよう主治医と事業所から適宜状況を説明している。	利用契約時や家族から相談があった時、利用者の状況が変化した時などに利用者や家族、職員、主治医も交えながら、今後の在り方について話し合い、希望に寄り添った支援を実践している。実際に看取り介護を行った経験もあり、職員や看護師などの関係者との連携体制も整っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会等で職員のスキルアップを図っている。 また、協力医療機関とは24時間連絡が取れる体制を作り迅速且つ適切な対応に努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を適宜実施している。 また、地域の方々ともいざという時の協力体制を整えている。(チョボラの会)	消火や避難訓練等を年2回実施し、地震や風水害についても連絡体制や避難場所、備蓄品などを定めたマニュアルを作成、全職員に周知している。地域住民や系列の施設、「いとの会」とは緊急時の情報共有や早期避難などについて連携し、利用者の安全に配慮している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の生活歴や性格等を把握し人格を尊重している。 職員へは、日頃から接遇やマナーについて話すこともある。	利用者のこれまでの生活状況等を事前に把握し、職員間で情報共有するよう努めている。利用者を知ることで一人ひとりを尊重し、それぞれが大切に考えていることや誇りを損ねない対応にも繋がっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介助に入る前には、必ず本人の気持ちを確認しケアに当たっている。 課題などは、職員間だけの意見交換で終わらせず、必ず中心に入居者を入れ本人の思いを反映させるようケアを検討している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の一日の流れは決まっているが、その日の本人の希望次第で参加されないこともある。 また、急遽外に出たいと言われる方には、中庭の開放や周辺の散歩などその時々で柔軟に対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切り、髭剃り、訪問カットは当然、外出前や行事前に化粧をしたりマニキュアを塗ったり、好きな帽子を選んだり、その人らしいお洒落を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に食前体操や献立の説明を行っている。行事食では、季節の食材を使用したり、入居者へ食べたい物の聞き取りを行う場合もある。 食器拭き等を手伝ってくれる入居者も多い。	利用者の状態に合わせて食事の配膳をする中でも小鉢や汁物、主菜ごとに食器を分け、視覚的にも楽しみながら食事ができるよう配慮している。汁物は具材の買い出しから片付けまで職員と利用者が一緒に行い、利用者の持つ能力を活かす場にもなっている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、食事量と水分量を記入し適量確保できるよう支援している。 摂取量低下が見られた際には、ご家族に本人の嗜好品を持参いただくなどして栄養の確保に努めている。 形態も、刻みやムース食で対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。 必要な際は、歯科医にアドバイスを受けたリ、適切な口腔ケア物品を相談し支援している。 連絡ノートを活用で状態を把握できるようにしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをチェック表で把握しながらトイレで排泄できるよう支援している。 また、適切な姿勢で出来るよう備品等も準備している。	足もとの台や背中のおて物など、利用者の状態や好みに合わせて、トイレ内の環境を作っている。利用者の不安な気持ちに寄り添い、声のかけ方を工夫したり、職員間の情報伝達方法に気を配ったりして、プライバシーにも配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課の体操や散歩等で身体を動かしていただくようにしている。 便秘の酷い方に対しては、主治医と話し合い内服薬調整し本人が不快な思いをしなくて済むよう努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人に入る前に確認を行い入るようになっている。希望があれば、時間帯の変更や音楽等の提供をし楽しむことができるよう配慮している。	入浴剤を使用したり、音楽を流したりして、楽しみながら入浴できるよう工夫している。利用者それぞれの状態に合わせて、同性介助や職員複数名での介助、シャワー浴や清拭の提案をして、清潔な状態を保てるように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	僅かな体調の変化を察知しベッド臥床や休息など健康管理に努めている。 夜間、不眠や浅眠の方には主治医に相談し安心して眠っていただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容の把握に努め、本人の体調を観察しながら疑問点などあれば主治医や薬剤師に相談している。 また、本人が心地よく健やかに過ごすことができるよう、薬の種類や量について検討を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に「したいこと」「食べたい物」の聞き取りを行ったり、日々楽しく過ごしていただけるよう努めている。 家事の手伝いや趣味の生け花、読書、塗り絵や書道など楽しまれている方もいる。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響で外出制限はあるが、状況を見ながら散歩等にお連れしている。 制限中は、中庭で過ごす方も多かった。	新型コロナウイルスの影響で遠出が難しい状況ではあるが、近所を散歩したり、買い物に出かけたりして、利用者の外出する機会の確保に努めている。外出が難しい場合でも事業所の中庭で体操や読書、他の利用者と談笑するなどして、気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人に食べたい物や日用品など必要な物を聞き、一緒に購入に行くことがある。 現在は、コロナウイルスの影響もあり状況により自粛することもある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族から希望があるため電話を繋いでいる。 現在は、オンライン面会を実施しており利用する家族も多い。 入居者も喜ばれている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には四季の花を生け、壁には皆で作ったカレンダーや月ごとのポスターが貼られ季節を感じられるよう工夫している。 また、中庭に職員と一緒に植えた季節の花を身近に感じることができる。	玄関口には花瓶やガラスのコップに飾られた花々があり、季節感とともに生活感も感じられる。汚物類は匂いがこもらないように捨て方を工夫してこまめなゴミ捨てを心掛けるなど、匂いや音、光など利用者の五感刺激にも配慮された、居心地よく過ごせる共有空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどのくつろぎスペースを設けており、自由にTVを観たり雑誌を読んだり、また気の合う仲間同士の談笑スペースとなっている。 ユニット間の行き来も自由であり、好きな時に好きな場所で過ごすことができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心掛け安全に使いやすく過ごせるよう努めている。 また、使い慣れた家具や思い出の物、写真を飾り心地よい空間づくりを努めている。	季節家電や普段使わないなどを収納できる棚が各居室内に備え付けられ、好みの家具類を持ち込んでも十分なスペースが確保できるよう配慮されている。居室内への訪問が多い場合には、一緒に過ごしやすいように家具の配置を工夫するなど、利用者の状況に合わせて居心地の良い空間となるよう取り組んでいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者と一緒に「できること」「したいこと」を探し、本人の得意分野を活かし自立した生活を送れるよう工夫している。		